

第3種郵便物認可

10

日中友好の架け橋に

中国留学生が市長訪問

県日中友好協会主催の第27次中国留学生ホームステイ受け入れて、飯田市を訪れている留学生4人が26日、牧野光朗飯田市長を表敬訪問した。

中国からの国費留学生に夏休みをさわかかな信州で過ごしてもらい、将来の友好を担う架け橋になってもらうと続く事業。今回訪れたのは早稲田大学から齋

利輝さん、孫大青さん（ともに江蘇省出身）、東京大学から重慶市出身の張穎さん、浙江省出身の劉莉莉さん。4人はいずれも大学院で各専門分野を研究する。市役所を訪問した留学生は、自己紹介をしながら「ホームステイの機会をもらい幸せを感じている」「焼き肉や温泉で歓迎してもらった。日中友好のために頑張りたい」と話した。

飯田市長は、昨年牧野市長は、天皇陛下の訪問に触れながら飯田を紹介。「人と人を結び付ける『結い』の町。いい印象を持ってもらい、また来てほしい」と呼び掛けた。留学生は牧野市長と飯田の名前の由来、元善光寺と善光寺との関わり、りんご並木など多岐にわたる話題を語り合

い、飯田の歴史と文化を感じた様子だった。4人は25日から2泊3日の日程で市内の齋藤憲さん方と馬場田正美さん方でホームステイしている。前日は、川本喜八郎人形館やりんご並木を見学し、飯田日中友好協会のメンバーらと焼き肉で交流を深めた。26日は桃の選果場やデ



市長の歓迎を受ける中国留学生

し、27日に阿智村の満蒙開拓平和記念館を訪ねる。



三沢さん(右)の説明を聞き、満蒙開拓の歴史と向き合う留学生たち

中国人留学生 満蒙開拓学ぶ 阿智の平和記念館訪問

都内の大学で学ぶ中国人留学生4人が27日、阿智村駒場の満蒙開拓平和記念館を訪れた。県日中友好協会のホームステイ事業の一環。旧満州（中国東北部）に渡った日本人と現地の中国人それぞれが被害を受けたという満蒙開拓の歴史に触れ、日中の平和を願った。

記念館事務局長の三沢亜紀さん（50）が、日本人が渡満した経緯や敗戦後の逃避行などを説明。満蒙開拓には被害だけでなく、現地の人たちの田畑を奪うなど加害の側面もあったと指摘した上で「記念館では全ての事実から正面から向き合って、これからの社会をどうしたいかを考えられるようにしている」と話した。

早稲田大で学ぶ孫大青さん（36）は「軍国主義への怒りはあるが、国策に翻弄された開拓団員たちは悪くない。日本と中国の間で、今後永遠に戦争が起こらないでほしい」と平和な日中関係を願った。

ホームステイ事業は県内10カ所で計29人が参加。4人は飯田日中友好協会員宅に同日まで2泊3日の日程で滞在し、飯田市の川本喜八郎人形美術館を訪問したり、松川町で桃の選果を見学したりして文化や生活などを学んだ。

飯田日中友好協会理事長の小林勝人さん（77）は「現在の日中関係は政府間では厳しい面もあるが、民間レベルでの交流が大切」と話していた。